

令和3年度 第5回石岡市総合計画審議会 会議録

1 会議の名称

令和3年度 第5回石岡市総合計画審議会

2 開催日時

令和3年11月1日（月）14時00分から 15時30分まで

3 開催場所

石岡市役所本庁舎 メロディアスホール

4 出席者

16人

5 会議録（要旨）

（1）開会

【事務局】

ただいまより令和3年度第5回石岡市総合計画審議会を開催する。なお本日の出席者は現時点で13名であり、本審議会条例第6条第2項で規定する定足数を満たしているため、今会議は成立していることをご報告する。また会議については、石岡市総合計画審議会傍聴要綱に基づき公開とさせていただきます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。初めに馬渡会長よりごあいさつをお願いする。

（2）会長あいさつ

【会長】

円滑な議事に取り組んでいきたい。よろしく申し上げます。

（3）議事

1) 基本計画について

①産業・経済施策ページについて

【会長】

それでは基本計画について、「産業・経済」施策ページについて事務局よ

り、説明をお願いします。

【事務局】

(資料1について説明)

【会長】

それぞれの立場から、有識者としてこの場で活発に議論しながら、不明点は事務局に適宜ご質問等をお願いしたい。それでは、「産業・経済」施策ページについて、5つの基本施策が示されているが、ご意見があればご発言いただきたい。

【委員】

提案なのだが、CO2削減に向けて、太陽光発電の取組はよいかと感じる。CO2の削減をはじめ、SDGsの順守、そして何よりも市に固定資産税がかなり入ってくることから、このような計画を入れないと、熱海の土砂災害のように、山に土砂を埋められてそれが崩れる恐れがある。そのような面からも、計画的に取組として入れることが重要だと思う。よく耳にするのだが、東京の事業者が窪地に太陽光を設置することを勧めるという呼び込みがある。そういったことを防止することからも、計画的に市が関与して進めていく必要がある。産業・経済の面からもメリットがある上、住民にとっても良い。さらに、保全となるほか、草刈り等で雇用も生まれる。ニーズに合った方法で、本計画に取り入れていければと思う。

【会長】

地域を活かして太陽光ということで、計画的に進めてほしいとのことだった。

【委員】

前にも話があったが、基準値・目標値が空欄もしくは「●」となっているものがたくさんある。審議するからには、基準値と目標値があって、それについて議論するものであると考える。それが「●」だと、どこに焦点を当てて議論をすればよいか全くわからない。何らかの形で数値として表さないと、きちんとした議論ができない。

また、「企業誘致の推進・企業支援の充実」について、成果指標である「新規企業誘致・既存企業の新増設件数」の基準値が令和2年度で2件、目標が20件となっているが、その一方で「課題」には「柏原工業団地内に新たな企業を

受け入れる土地も十分でないことから、土地利用の検討が必要となっています」とあり、工業団地がいっぱいとなっている中で、企業数を増やすのは非常に大変な状況なのではないか。新たな工業団地の増設を考えているのであればまた話は別だが。あるいは、石岡のスマートICからの道路を整備することにより、そこに企業に張り付いてもらうといった計画もまた必要と考える。企業誘致については重要な課題だと思う。先ほど委員から太陽光の話があったが、雇用が拡大し、固定資産税が増えることは、石岡市にとって大きなことである。

数年前まで企業推進室があった頃には、東京に行ったり、企業を回って企業誘致をしたりして、雇用が生まれるような政策を行っていた。今後は、質的な部分も含めて対応して欲しい。

【会長】

まず、1点目について、基準値と目標値で「●」となっているもので、数値を前提に議論するものであるため、明らかとなっていないのはおかしいというご意見であった。令和2年度を基準とするのか、令和元年とするのかというところもいろいろある中で、基準値をコロナ前にするのか、コロナ禍の中とするのかについて、恐らく、そこが決まっていないので数値も決まりにくいのかなと推測している。基準値について見通しも含めてあれば、後ほど事務局にはお答えいただきたい。

2点目、柏原工業団地への企業誘致について、土地がない中でどうするのかという点について、戦略的にトップセールスをすることも含め、重視すべき取組であるというご提案であった。

ご意見を踏まえて計画に盛り込むことになると思うが、事務局としてもぜひご考慮頂きたい。ひとまずは引き続きご意見を伺いたい。

【委員】

具体的な数値について議論するべきだという意見については自分もそのように思うため、よろしく願いしたい。

「中心市街地の活性化」について、ステーションパーク等を活用した「にぎわい導線づくり」の記載があるが、にぎわい導線づくりは、中心市街地だけではないと考える。昨日と一昨日、フラワーパーク内でフラワーパークマルシェが開催され多くの方が訪れた。また、風土記の丘でも商工会の青年部が中心となってマルシェが開催された。独自にそれぞれの地域の中でにぎわいづくりを行っている中で、そのようなことに対する補助・援助をお願いしたい。つながりを積極的につくることについて、考える必要があると考える。

また、15ページの「農業の振興」で6次産業化について出ている。観光でも

6次産業について発言したが、地域を発展させていくうえで重要な課題である。6次産業化に向けた具体的な条件をつくる必要がある。一例として、道の駅について、だいぶ前からこの話が上がっているが、実際に6次産業に相当強く結びつく部分である。どのように載せていくかはわからないが、重要な問題であるため、6次産業を可能にする条件を考える必要がある。

【会長】

前回の会議でも話にあった部分である。テーマがそれぞれ分かれていても、連動した施策は重要である。縦割りの施策テーマだけでなく、横ぐしで刺すような施策の検討をお願いしたいということで、強調させていただきたい。

【委員】

「里山の保全対策」について、ジビエの施設をつくることでイノシシの肉をさばいて食べるという取組が県にはない。県として、2か所つくっていくような計画があるそうだ。石岡市も手を挙げて情報交換して欲しい。というのは、近年イノシシ（イノブタも含む）について、つくば市、土浦市、かすみがうら市、石岡市、笠間市、桜川市の6市が鳥獣被害を被っている点から、6市でしっかり協議会をつくり、イノシシ対策を行っていただきたい。そういった観点から、ジビエの施設も石岡市にあれば、いろいろな相乗効果が出ると予測できる。イノシシを削減しながら販売してければ生産部分にもつながるのではないか。近年、缶詰も見直されており、実際に鹿の缶詰を食したが、匂いも異なり、長持ちもする。缶詰にしていくと肉の食感また違ってくる。里山保全対策としてのジビエの施設や協議会の創設についてご検討いただきたい。

【会長】

「里山保全の対策」には守りと攻めが重要で、守りは被害を食い止める、攻めとして肉を利活用していくといった形で二面性をもって進めていく。それについてはぜひ事務局でご検討いただければと思う。

【副会長】

14ページの「農業の振興」について、現在、農業従事者がますます高齢化し、農業をやめる方、農地を手放す方が多くなっている。特に、石岡市では梨農家が多いが、新たな誘致ばかりではなく、市として力を入れて、もともとある農業・産業を続けるために担い手を確保すれば、新たにやってみたいという若者が出てくるかもしれない。そういう人たちにアピールしながら、積極的に既存の農業・産業を続ける支援が望ましい。そのためにも、先ほどもご意見が

あったが、「推進室」の創設というのが絶対に必要だと考える。

【会長】

既存の農業を守っていくことが、里山の保全につながるというご意見であった。連動しているものであるため、軽く見てはいけないとのことである。

【委員】

埼玉県等は、昼間と夜間の人口がものすごく異なる。石岡市には外に働きに行く人と石岡市に来る人がいる。石岡市の雇用がどのくらいなのか、働きに出てしまう人がどの程度なのかはわからないが、施策同士の連携という意見が前回よりある中で、産業と地域・文化は密接であると考ええる。前回計画を審議する中で、柏原工業団地の上下水道の料金が、家庭と一緒にであるという指摘があった。企業を誘致する際にもそういったことがネックとなることが話題に出た。雇用の場をつくるのは大切である。そのため、そういった課題をどのように計画に盛り込むかは難しいが、重要な点であるため、課題と論点について、前向きにお願いしたい。

また、「中心市街地の活性化」について、駅も含め、駅の周りは発展していると思う。ところが、駅前の通りをはじめ、商店がどんどん減っているようだ。昔からのお店に前から来ている人もいると思うが、その一方で、駅前の通りを通過する人のほうが多いと思われる。少し車を停めて用を済ませるには不便である。実際にお店を利用しようと思っても、利用しにくい形状となっている。総合的に、中心市街地活性化の課題に入ってくる部分である。市で大きな計画があるとは思いますが、実際に厳しい現状ではないか。

里山保全について、自転車で「岡野ファーム」をはじめ、八郷を回らせていただいたが、すばらしい景色や石岡市ならではの品物を紹介できると思うので、本気でPRをして欲しい「地域・文化」でも意見が挙がると思うが、住む若い人たちが、外に働きに行く場合、石岡市の良さが見えないでいる場合が多いと思う。そこで、例えば、茨城空港が連携しているとレベルが上がる。市でやっていることや「よさ」をいかにネットワークで知らせ、みんなで動くのかというのが大切だと思う。

【会長】

1点目、昼夜間人口や上下水道などについて、意見の趣旨は、データとして示したうえで課題があり、原因、それに対する計画があるという、最近耳にする「EBPM」の点から、社会調査やデータを基にして施策を展開していくべきである中で、文字だけだとやはり説得力がない。

2点目の「里山の保全対策」について、現地調査をされた中で、攻めの取組によって強みとなるため、ネットワーク構築に向けて、さまざまな専門性の力・知恵を借りる必要がある。ネットワークを構築することで、市民が石岡市を「自分ごと化」していくことが期待できる。名称はさておき「石岡市民会議」などを創設してネットワークをつくることが重要と考える。

【委員】

会長がおっしゃった会議のようなものは非常に良いと思う。

カーボンニュートラルということで、脱炭素は世界的な課題となっており、石岡市としても大事である。施策ページには、森林を保全することにより、酸素を供給するといった趣旨の文章が書かれているが、脱炭素というのは、単に炭素を出さないだけではない。例えば、竹林はそのままにすると問題であり、かえって酸素を吸収し、炭素を出すという状況となる。竹林を燃やすことで、整備するとともに、竹炭をつくり、竹炭を埋めることにより、50年、100年を見据えて脱炭素になるとのことである。脱酸素は、使わなければよいということではないため、市でもシンポジウム等を開催し、勉強していくことが重要である。

また、「岡野ファーム」について、担い手はUターンである。お父さんが梨農家を続けられないということで、子どもが石岡市に戻ってきて梨の木を伐採し、代わりにブルーベリーを植え、さらにレストランを始めたとのことである。すばらしい場所であり、市民、観光客等を通じて広まり、さらにニュースとして伝わった。土曜日の番組でも取り上げられるほど反響がある状況である。場所づくりというのは非常に大事で、さらに跡継ぎの部分も重要である。八郷は都会に近いが、住む場所がない、借りる場所がない。さらに、後継ぎがない、荒れてしまうという状況があり、行政がマッチングをし、農業をやりたいという方が参入できるようにすれば、間接的に里山保全、農業の継続・保全となるのではないか。そこには当然、教育等も付随してくる。

【会長】

さまざまな情報提供をいただいた。それらの点についても、事務局でご検討いただきたい。

【委員】

テレビ番組などでもさまざまな映像が流れるが、そもそもテレビを観ない方というのも相当数いると思う。テレビ番組は、PRとしての一つの媒体ではあるが、デジタル化を活用して、観なかった人に対し、市内外の人に向け、録画映

像を観光案内所等で流すことができればよいと思う。権利の問題で実現可能かどうかかわからないが、PA等でもそういった映像が流れていることがあると思うのでぜひご検討いただきたい。

【会長】

今までの石岡市を紹介する映像等、すなわち「デジタルアーカイブ」をどこかで気軽に観られるようにして欲しいというご意見であった。著作権が関わってくると思うが、知恵を絞って、外部の人が石岡市を取り上げて、ここまで評価されているのだということを発信すれば、波及効果があると思う。ハードルはあるが、皆さんの知恵を拝借しながら考えていきたい。

【委員】

里山というのは本当に大事だと思う。サイクリングに関連して、土曜日に市主催のサイクリングツアーがあり、自分も参加した。朝日里山学校では、ピザ等がふるまわれた。つくば霞ヶ浦りんりんロードについては、県知事が走るなど、PR及び整備がされており、人気がある。一方、石岡市の恋瀬川サイクリングロードについては、整備がイマイチである。イベントの参加者は9名で、倍の数のスタッフが来ているという状況であった。市内にはよいスポットが多く存在しており、さらに充実した内容の企画であるのに、なぜ参加者が少ないのかということを考えてときに、やはり整備がイマイチなのである。歴史のスポットを回れるようになってきているのは素晴らしいと思うので、整備とPRをすることで、参加者数を増やして欲しい。トンネルを抜けたところには常に競輪の選手が歩いている。もっとサイクリングの活動をPRして、市内を歩けるようにしていくべきである。

また、子どもが訪れる農家は活気づいているが、お嫁さんがお年寄りを支えているところもある。過去に、イチゴをやりたいという若者がいたが、その農家が託したいと考えても、周りの親戚から、よそ者に土地を取られてしまう、きっと騙されているのだと言われたというケースがいくつかあった。そういった部分も根強いと思うため、市が間に入って後継者を獲得していかないと、農家を続けることができない。

【会長】

これはずっと言われていることであり、改めてご指摘いただいた。よろしくお願ひしたい。

【委員】

市外から石岡市に住みたいとなった場合、あるいは後継者がいない状況下において、空き家バンクをしっかりとPRして、具体的な内容を提示すれば、おのずと東京等から八郷に歴史・文化、農業を求めてやってくると思われる。そのため、空き家バンク制度をきちんと利活用する必要がある。

【会長】

空き家バンクをつくっても物件がないという状況もあるためきちんと利活用する必要がある。どのようにすればやっていけるかという点について皆さんからもお知恵をお借りしたい。

【委員】

8ページの「中心市街地の居住人口」の基準値を維持することが目標となっているが、非常に消極的な印象である。その一方で、成果指標として「1日あたりの中心市街地における歩行者通行量」については2,800人にまで引き上げる目標となっている。基本的に、まず居住人口増やさないと、周辺からさまざまな事情で往来する人をあてにするだけでは、中心市街地の機能を向上することはできないと思う。空き家バンクの話が挙げたが、中心市街地の高齢化により、空き家が出ているのではと推測する。そのあたりの実態の把握と、利活用を通して新たに人口を増やしていく必要がある。駅に近いという立地条件からも、流動的になれば、人口が増える余地もあるのではと考える。居住人口を積極的に増やすことを第一に、その上で、イベントなどで周りから人を呼び寄せようという順番だと思う。

【会長】

目標であるため、大きく見せたほうがよいというご意見であった。ご検討いただきたい。

【副会長】

石岡市は東京都に近いので、土地をうまく利用しない手はないと思う。農業のグループ化、企業化など、チームでやっていくようなことを、若者に向けて「見える化」していく必要がある。具体的な先行事例が見えるようにすれば若者も興味を持つのではないか。儲かる農業にしていけないと、都会に出てしまう。市の協力を得ながら、チームワークで進めていく必要がある。

【会長】

さまざまな職種・業種が関わりながら、連携していく必要があるというご意見だった。

一昨日、県議会の「県民との青空対話議会」というものが開催されたが、そこに高校生と大学生が参加し、今後、若者が茨城県を支えていくことになるが、その中でどうしていくのかという意見交換が行われた。学生からは2点意見があった。1点目は「夢を見てください」とは言うけど、夢の見方が分からないと明確に言っていた。その通りである。デフレ時代に生きている若者に、夢を見せることも大事である。もう1点は、議会に対する苦言で「手の届く範囲で議論するのをやめてほしい」とのことであった。私が聞いた話はどうこうである、自分の知り合いがどうした、などの話はむしろ説得力に欠けるとのことである。たしかに、社会調査を行う者として、ある程度のデータやエビデンスに基づいて議論する必要があると考える。その上で、それぞれが聞いた話が代表値なのか、外れ値なのかを見極めることができる。

高校生は、石岡市に通っているだけで、商店街等には興味はない人がほとんどだと思う。ところが、一本、道に入っていくだけで違うものが見えてくる。その中で夢や可能性も見えてくるかもしれない。コロナが少し明けてきた中で、チャンスにもなり得る。

では、「産業・経済」施策ページについてはここまでとさせていただきます

②「地域・文化」施策ページについて（資料2）

【会長】

「地域・文化」施策ページについて、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

（資料2について説明）

【会長】

「地域・文化」施策ページで「共に創る地域と多様な人々が活躍できるまち」ということだが、こちらの政策目標でおそらく多く意見が出ると思う。連動する部分もあると思うので、基本施策ごとではなく、一括してご意見をお聞きしたい。

【委員】

「協働によるまちづくりの推進」について、コミュニティの区長に焦点があてられると思うが、同時に、消防団についても、焦点を当て、なかなか若い人

が集まらないという課題がある中で、一生懸命頑張っていることを記載してほしい。災害時等には消防団が必要となってくるため、計画の中で光を当てていただきたい。

【委員】

防災は非常に重要であると思う。「地域の防犯活動や美化活動など」という文言となっているが、災害・震災がいつ起こるかわからない中で、防災機能においては、自助・共助・公助と、それから「近助」が大切だと考える。防災意識の醸成をはじめ、計画の中に「防災」というキーワードが入ってくる必要がある。

【会長】

前総理が非常に強調していた部分である。また、東日本大震災においては、普段から助け合う地域では、避難等がスムーズだったという事例や研究がある。先ほど、共助よりもさらに「近助」という意見があった。

【委員】

疑問点で、基準値として「令和3年度調査実施」とあるが、アンケートを実施するということか。

【事務局】

他の施策や政策指標にもこういった記載があると思うが、提示の設問を市民満足度調査に追加した形でアンケートを実施したいと考えている。

【会長】

最新の数値に基づいて進めるとのことである。

【委員】

その場合、アンケートの内容を考慮しないと、結局、回答すべき人が回答しない、例えば、英語学習等、子どもが答えるべき設問に対し、親が答えるといったことになりかねない。そういったことがないように、どのような対象にこういったアンケートを考えればよいのかというのをしっかり考えてほしい。そうでないと、本当の割合なのかが把握できなくなる。

【委員】

3ページと7ページに、地域のコミュニティに関する記載がある。また、先

ほどの議論にもあったが、協働のまちづくり推進事業などには、いくつかの担当課があって、それぞれを中心として問題提起し、それぞれの会議体等に集まった方が議論するのは悪くはないが、2、3年で担当が変わっていくため、積み上げた内容が活かされないまま終わることがある。また、同じような内容を別の担当課や組織が進めているという状況である。それらも含めた全体の委員会など、次に活かされる、横ぐしの形をお願いしたい。縦線だけで、行政の方がまとめていこうだということだけでは、評価が難しく、実際に何も変わっていないことが往々にしてある。石岡でも八郷でも独自のコミュニティがあり、各コミュニティが保有する情報について、市報等でまとめられていない状況もある。情報が分かっているだけでもずいぶん変わってくる。例えば、八郷のある組織には地域通貨がある、あるいは、耕作放棄地に対しみんなで協力し合いながら開墾するなど、たくさんの事例がある。地域づくりに活かされている事例がひとつにまとまるものではないが、意欲を発揮できるような形や、補助のある体制が望ましい。

また、過去に八郷の公民館を中心としておしゃべりコンサートがあった。農村地域の中でクラシックをやるというのが10年、20年続いたが、ある時になって継ぐ人や、実施する場所がなくなった。若い人たちが入って、自分たちの音楽や文化をつくっていくようなことがあるとよい。市民会館があった当時は、運営委員会もあった。また、市民会館を知ってもらうために映画会などをした。文化形成に役に立った。おしゃべりコンサートについてはぜひとも再開して欲しい。

【委員】

区長の次の人を決める際に非常に大変な状況である。消防団についても同様に、辞める人がいると、次に入団する人を見つけるのに大変苦勞する。人をつくるための施策があったら良い。みんなで協働のまちづくりを行うといった文言や、そのための取組があることが望ましい。人がいない、役員となる人がいないということが問題となっている。

【会長】

いかに多くの後継者がいるかということが責務である。参考指標にある、付属機関に属している人の数も重要だが、何よりも内容が大事であると考えて。男性・女性、年代を考慮するほかに、時間帯についても、働く世代や学んでいる人などは参加できないものとなっているかもしれない。より多くの市民を参加させるには、オンライン、休日なども考えていく必要がある。数字を達成させるだけではなく、本質的な部分に取り組んでいくべきだというお二方からの

共通したご意見であった。

【委員】

参考指標に「運営支援を行っている市民団体数」とあり、将来的には入ってくると思うが、せっかくなので、市民団体の一覧表を示してほしい。そうすれば、どういった団体が具体的に何団体というのが分かる。市民団体間で整理統合の問題が出ているが、それを前向きに進めるためにも一覧表となっているとよい。

【委員】

13ページに、「石岡市所蔵の美術品」というコラムがあり、美術品を239点所蔵しているとのことだが、市役所にも相当数が保存されていると思う。恐らく、彫刻などで、市民の手に触れないものも相当数あると思う。長期的には美術館の設置も考えられるが、例えば学校等に、市民、特に子どもに見える形で美術品を公開すべきで。小さいうちに美術品を見る機会があれば、いろいろな可能性も広がる。そこまで難しい話ではないと思うので、活用方法について検討してほしい。例えば、美術の教室・時間を活用して、フラワーパークやその他市内の施設の見学を行うのはどうか。市主催の美術展に来る人は固定化されており、限定される。できれば小学校・中学校の美術などの時間を利用して美術展の見学等に活用してほしい。

【会長】

美術品の利活用についてであった。石岡市の魅力向上、市を知ることや郷土愛の醸成等にも波及することがあるというご意見であった。

【委員】

239点の美術品の一覧表があるかどうかは知らないが、選択すると写真等が選べるなど、SNS等を活用してPRも必要ではないか。

【会長】

デジタルアーカイブの視点からのご意見であった。

【委員】

石岡市の芸術の中心について、何を推しているのかなと考えると、益子や笠間はすぐに陶芸を思い浮かべる一方で、石岡市では木工製品を何人かで集まって作っているということを聞いたりするが、市としては何を売り込んでいる

のかについて、市民に「見える化」していくべきである。どういう人を呼び込んで、どのように育てているのかというのを明確にして欲しい。

【会長】

計画的に概念についても検討して欲しいとのことだ。

「地域・文化」施策ページについては以上である。とりまとめについてよろしくお願ひしたい。

③その他の施策ページについて

【会長】

続いて、その他の施策ページについて事務局から説明がある。前回は踏まえて、資料が修正されている。

【事務局】

(資料3・4について説明)

【会長】

「歴史・観光」施策ページ、「健康・福祉」施策ページについて前回の議論を踏まえ修正がなされたというご説明であった。さらにこうして欲しい、あるいは感想があればお願ひしたい。

【委員】

「歴史・文化」施策ページについて、「見せる文化財」ということで、VRやARを活用すれば、再現できる映像があると思う。史跡等で今は何もないという状況にはなっているもので、仮想的な映像で見せることにより、かつてこのような場所であったということを見せられれば、より一層市外からも人が訪れ、魅力につながるのではないか。また、歴史・文化の保存にもつながると思う。そのため、VR・ARという文言を追加していただきたい。

【会長】

ご意見に関連して、デジタルアーカイブの話もあったため、ご検討をお願ひしたい。

【委員】

前回の審議会から本日まで、期間が短かったのにも関わらず、自分が出した意見について、市が取り上げてくれたことを大変うれしく思った。

【会長】

審議会は決して聴聞会ではなく、市民の意見を聞いたうえで計画策定を行っていく。自分が関わってきた自治体において、総合計画審議会の開催について、石岡市ほど回を重ねる自治体はこれまでにない。真剣に市民や有識者の意見を聞きたいという市の姿勢の表れかと思う。より真剣なご意見、さらに、この場に限らず、さまざまな年代も含めて広く意見を聞くことが大事である。

【副会長】

「歴史・観光」施策ページについて、「筑波山や霞ヶ浦等の自然環境」とあるが、選挙の応援をした際に、市議のとある先生がおっしゃったことには、霞ヶ浦の水質を浄化することによって観光地にするというプロジェクトがある。それは、茨城空港から海外のお客さんと呼んで行うという大きなプロジェクトとなっている。霞ヶ浦にも近い石岡市に住む自分にとって、夢がある話で、嬉しくなった。筑波山地域ジオパークの取組に既に入っているかもしれないが、霞ヶ浦をもう少し取り上げて進めても良いのかなと感じた。

【会長】

広域的に取り組んだほうがよいというご意見だった。

【委員】

広域的な視点はどうしても必要だと思う。石岡市だけではなく、一緒にものごとを考えていくというのは重要である。ジオパーク等も含め、広域で行うことについて掘り下げ、協力してやっていくことをどこかに記載するべきである。

【会長】

その際はぜひ、石岡市がリードして引っ張っていく方向でお願いしたい。

皆さんのご意見が再び次回の会議で反映されることとなる。次回も活発なご議論をお願いしたい。以降は事務局にお返しする。

(4) 閉会

【事務局】

次回の審議会11月16日を予定している。以上を持って閉会とする。